

長年の活動に対し 宮古警察署から感謝状

7月1日、宮古警察署で山田町交通安全母の会に長年の活動に対し感謝状が贈られました。



感謝状を受けた山田町交通安全母の会の皆さん

山田町交通安全母の会は、婦人団体協議会内の組織で、交通事故から子どもたちを守ることを目的

として活動しています。年間を通して、街頭啓発活動などを行い交通事故の防止を呼び掛けています。また、家庭から被害者・加害者を出さないように、日ごろから家族での交通安全について会話するように呼び掛けも行っています。感謝状を受けた会長の阿部秋子さんは「感謝状をいただ

いてとてもありがたいです。今後活動も頑張っていきたい」とこれから活動に意欲を見せました。また、町民の皆さんに「高齢者による事故が増えているため、運転に気を付けてもらいたい。また、復興により道路状況が変わっているため、注意して運転をしましょう」と呼び掛けました。

「父から聞いた 関東大震災復興」

(前号からの続き)

関東大震災復興工事は大工の師匠に弟子入りして師匠の知り合いの東京の建設会社から頼まれて師匠と弟子何人かで出掛けた様である。大工道具、夜具、着替、洗面道具等を梱包して汽車や車の無い時代で宮古から塩釜まで三陸汽船が運航していた船越からさつば船を頼み道具や夜具等に乗せ沖合に行き三陸汽船に乗船し塩釜から仙台に行き汽車で東京に行った様だ。東京では仮設飯場を建て父は若いので炊事や下働きをした様だ。関東大震災復興はバラックや住宅を建て私の方にと引っぱり蛸で有った様だ。お盆暮れや地元の仕事が有る時は帰り何年か出稼に行った様だ。父は腕が上がり伯爵の高級住宅新築工事に携わ

□□□□□□

みんなの スペース

◆あて先・問い合わせ
〒028-1392 (住所不要)
山田町役場総務課情報係
(☎82-3111内線416) へ。

り材料や細工も吟味し最高な体験したと自慢していた。伯爵の奥方から高級なお菓子を頂いた様だ。地元で働くより少しは金になり書留で送ったり頑丈な道具箱に錠を掛けて入れたり胴巻に入れていた様だ。賃金の不払いや蛸部屋の様子なのがあったと言っていた。帰りは仙台まで汽車で塩釜から三陸汽船に乗船し山田で下船し山田の店で買物し百円札を出したら番頭が表に出て偽札と思ったのか太陽に透したと父は大笑していた。「いってん」を見て父から聞いた関東大震災復興の話の思い出し父を尊敬する。

松崎 万太郎(船越・79)

山田町民文芸広場

口よせの 巫女がわねねく 恐山

コスモスの

花にとまりて 揺らさざる

あきあかね映ゆ

朝の日差しに

雲おき

八月の空 かがやきぬ

未来が無限と

思へる青さ

内館 洋一(飯岡・76)

幼き日の 蚊帳の螢火 懐かしむ

沼崎 悦子(船越・77)

町長室から

7月17日から3日間、岩手県町村会主催の九州視察に参加した。私は九州には今まで一度も行つたことがなく、初めての訪問となつた。福岡空港に午後4時20分に到着。すぐに、新元号「令和」ゆかりの地大宰府を見学する。翌日は佐賀県江北町、午後には長崎県波佐見町を訪問した。人口減少問題はいずれこの町長も悩んでいる。台風5号の影響で、意見交換中も雨が音を立てて降っているが、外に出ると不思議と止む。最終日は、皆で傘を持つて出かけたが、雨が降ることはなく、荷物にだけなつた。そして、今回の視察で私が一番行きたかった所が大浦天主堂である。長いキリシタン弾圧の中でよくも人々の心に信仰が生き続けたものである。被爆した大浦天主堂にあつたのが「長崎の鐘」である。この鐘が被爆直後の長崎市民にとつて、どれほどの心の支えになったのだろうかと思ひながら帰路に着いた。

山田町長 佐藤 信逸